

外務省は9月7日現在「ネパール中部で発生した大規模な土石流災害に関する注意喚起（かんき）」を引き続き掲載しています。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcspotinfo_2026C039.html

8月26日に大規模な洪水、土石流が発生した災害について連日報道されています。世界中が心を痛めています。被害を受けられている方々や関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

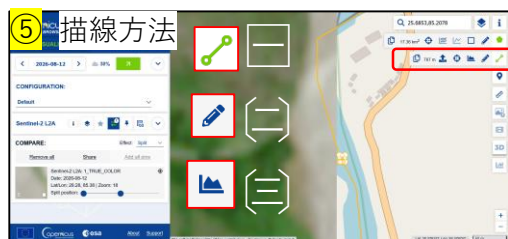
センチネル2は、大規模土石流発生直後の8月27日にギロン周辺を観測しています。雲に隠れているところも多くありますが、被害の様子におどろきました。

8月12日の土石流被害前の観測の⑧3D図では、周囲の山々の美しさと斜面の険しさに改めて気づきます。コペルニクスブラウザの描線機能  をつかって、標高断面図で何がどれほど把握できるか本号では探ってみます。河川を標高断面図を手がかりに探ります。⑥⑦

2026年8月12日ギロン周辺3D



①図の共有URL <https://go.nasa.gov/4cwCxBF>



* 河川を追っての描線は根気が必要です。でも、ネパール北部の河川の状況は、手に取るように把握できます。支流の多さに気づきます。



河川の勾配（こうばい）は1m高くなるためには、どれだけの水平距離が必要かで表します。信濃川は千曲川を含む全体で1/170です。利根川は1/180です。日本一の急流の早月川は1/20です。ネパールのトリシュリ川は相当な急流ですね。トリシュリ川は幾つかの川と合流しガンジス川、メグナ川となり約1,100km先でベンガル湾に注ぎます。

* 手作業で河川勾配を求めています。公値ではありません。



SWIRレイヤーで変化を確認できます。川の直角方向に描線し⑤と同じ方法で、土石流の影響範囲を推察します。川の東側では120mの高さがあったようです。

